



建築技術性能証明書

技術名称：アスコラムTYPEⅡ
－スラリー系機械攪拌式深層混合処理工法－（改定3）

申込者：麻生フオームクリート株式会社 代表取締役社長 花岡 浩一
神奈川県川崎市中原区荻宿36番1号

技術概要：本技術は、セメント等の固化材スラリーを吐出しながら地盤を掘削攪拌することで柱状の地盤改良体を築造する機械攪拌式深層混合処理工法である。本技術では、孔壁に対して円周方向に押し付けて静止する共回り防止翼を装備することで固化材と地盤土の共回り現象を防止し、改良体の品質の安定化を図っている。共回り防止翼の配置は、2対の攪拌翼の間に装備する場合（type-A）と先端の掘削攪拌翼と下側の攪拌翼の間に装備する場合（type-B）がある。

開発趣旨：深層混合処理工法では、粘性の強い改良対象土が攪拌翼に付着して一緒に回転する現象（共回り現象）が生じて、固化材と地盤土の攪拌混合が不良となり改良体の品質に問題が生じる場合がある。本工法は、この問題の解消を意図して開発したものである。

当法人の建築技術認証・証明事業 業務規程に基づき、上記の性能証明対象技術の性能について、下記の通り証明する。なお、本証明は2022年2月10日発行のGBRC 性能証明 第 06-09 号 改 3 (更 1) を更新するものであり、有効期間は、2028年2月末日までとする。

2025年2月13日

一般財団法人 日本建築総合試験所
理事長 川瀬 博

記

証明方法：申込者より提出された下記の資料および施工試験の立会確認により性能証明を行った。

資料1：アスコラムTYPEⅡ 性能証明のための説明資料

資料2：アスコラムTYPEⅡ 施工マニュアル

資料3：試験資料

資料4：更新資料

資料1には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した説明資料がまとめられている。

資料2は、本技術の施工マニュアルであり、施工方法および施工管理方法などが示されている。

資料3には、資料1で用いた個々のボーリングコアの観察結果や圧縮試験結果、立会施工試験報告書などが取りまとめられている。

資料4には、施工実績や運用体制の維持状況などがまとめられている。

証明内容：申込者が提案する「アスコラムTYPEⅡ 施工マニュアル」に従って築造される改良体は、土質に応じて400～2,000kN/m²の設計基準強度を確保することが可能であり、配合設計および品質検査に用いる改良体コアの一軸圧縮強さの変動係数として、砂質土、粘性土およびロームで25%が採用できる。

また、本技術については、規定された施工管理体制が適切に運用され、工法が適正に使用されている。